■会議報告

第11回電子分光電子構造国際会議

大門　寛　（奈良先端科学技術大学院大学）

2009年10月６日（火）～10月10日（土）の５日間にわたり，奈良県新公会堂（奈良市春日野町101，奈良公園内）において第11回電子分光電子構造国際会議（11th International Conference on Electronic Spectroscopy and Structure（ICESS-11））を開催した。

本国際会議「電子分光電子構造国際会議（ICESS）」は，ナノテクノロジーなどの新規材料の性質をつかさどる電子の状態「電子構造」とそれを調べる「電子分光」の基礎と応用に関する最も大きな会議であり，1971年に米国で電子分光会議（ICES）として開催されて以来，ほぼ３年おきにアメリカ，ヨーロッパ，アジアで開催されてきている。第８回目からは，STS などによる「電子構造」の研究も会議内容に含まれるようになり，名称も電子分光電子構造国際会議(ICESS)となって規模が大きくなっている。

参加研究者は総計364名（日本人208名，外国人156名）であった。参加国はアジアオセアニアから８カ国（オーストラリア，中国，インド，日本，韓国，シンガポール，台湾，タイ），ヨーロッパから17カ国（オーストリア，ベルギー，チェコ，エストニア，フィンランド，フランス，ドイツ，アイルランド，イタリア，オランダ，ノルウェー，ロシア，スペイン，スウェーデン，スイス，イギリス，ウクライナ），南北米から３カ国（ブラジル，カナダ，アメリカ）の総計28カ国であった。この規模は，世界的な経済不況で旅費の支援がなくて来られなかった人が多かったにも拘わらず，参加者数で歴代２番目，参加国数で３番目に大きなものであった。

プログラムでの発表数は，基調講演10件，招待講演40件，口頭発表54件，ポスター発表283件，総計387件であった。学生ポスター賞の授与を今回初めて行い，Junichi Yamaguchi, Jian Jiang, Shih-Wen Huang, Kenta Motobayashi, Hiroyuki Kamada, Kuniaki Arai, Nora Bergmann, Yuka Horikawa の８名が受賞した。基調講演では，Maria Novella Piancastelli が原子分子科学の最前線の総括，Akiyoshi Hishikawa がフェムト秒分光，Maya Kiskinova がナノ顕微分光，Martin Wolf が時間分解分光，Dong-Lai Feng が電荷スピン分離電子状態，Jürgen Kirschner が表面マグノン，Eric L. Shirley が光電子の多体理論，Pieter Glatzel が硬 X 線分光，Robert Schlögl が高圧光電子分光，

ICESS-11　11th International Conference on Electronic Spectroscopy and Structure October 6-10, 2009 Nara, Japan

ICESS-11　11th International Conference on Electronic Spectroscopy and Structure October 6-10, 2009 Nara, Japan

(C) 2010 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

Yasutaka Takata が硬 X 線光電子分光の講演を行った。これらは前回の会議以降に出現した最近の最先端のテーマであり，これらの詳しい講演を，この分野の日本の若手研究者を含む多くの研究者が一堂に会して聴講・議論できたことは，材料物質分野の発展に大きく寄与できたのではないかと思われる。

開催場所の奈良県新公会堂は，東大寺を含む多くの世界文化遺産に囲まれた奈良公園の中にあり，シルクロードの東の終点ということで国際性豊かな正倉院の螺鈿紫檀五絃琵琶を会議のロゴマークにした。日本文化の良さを知っていただくため，琵琶奏者の第一人者上原まりさんに琵琶リサイタルをして戴いた。台風18号が 3 日目の夜に直撃して，4 日目の朝のセッションを遅らせたというハプニングがあったが，昼からの法隆寺への Excursion の時には台風一過の快晴に恵まれ，若草山頂上から麓の会場までダウンヒルハイキングを楽しむ外国人が多かった。バンケットもきれいな日本庭園の中で行うことができ，鏡開きや和太鼓演奏などを行った。

全体として，プログラムの内容の良さ，会場の構成・設備の良さ，滑らかな運営，気配りの良い Excursion など全てにわたって，驚くほどよく組織された会議であるというお褒めの言葉を多くの外国人からいただき，科学的のみならず国際文化交流にも貢献できたと思われる。運営にご尽力いただいた実行委員，プログラム委員，関係者の方々に深くお礼申し上げます。